

ボーリング調査結果について

- 土層区分と地盤特性（下表及び次ページ推定地層断面図参照）
- ・ 右のとおり、表層の盛土層の下にある地層は、ボーリング調査結果及び室内土質試験の試験結果を総合的に評価すると「安定した地盤」とであると評価される。

■法面の安定計算結果（詳細は省略）

・ 法面の安定計算を行った結果、安全率は 1.2 を超え、法面の崩壊の危険性は極めて低いと評価される。
- 土層区分と地盤特性（右表及び次ページ推定地層断面図参照）

・ 地表部には黒ボクからなる表土層(Ts)が 3. 20m と厚く堆積している。

・ 盛土層の下位、表土層以下の地層については、立川・武蔵野ローム層は、全体に均質な火山灰質粘性土からなり、高い特性値を有する安定した地盤となっている。

・ その下位の下末吉ローム層は水中に堆積した火山灰で、ほぼ凝灰質粘土～砂質粘土からなり、均質な立川・武蔵野ローム層に比べN値の低い部分もあるが、せん断試験結果では一般的な同様のN値を示す粘土に比べ高い強度が確認されており、立川・武蔵野ローム層同様に安定した地盤となっている。

・ 東京層は砂質土(Tos)を主体に堆積しており、ほぼ粒子微細で均一な細砂部と全体に粘土分等の細粒分を含む微細砂～細砂部からなる。なお、砂質土層はその特性から概ね 3 層に区分され、特に中間層となる第 2 砂質土層(Tos2)については大半がN<30 にあり密実性がやや低い。また、No. 1 地点：現 GL-20. 70m 付近、No. 2 地点：現 GL-15. 00m 付近において東京層：粘性土(Toc)となる砂質粘土が確認されたが、層厚が 0. 90m 程度と薄層に堆積している。なお、砂質粘土のN値は 13, 24 と高く、硬い地層となっている。
- 【調査位置及び推定地層断面位置】
- | 時 代 | | 地 層 名 | | 記号 | 土 質 名 | 層厚 (m) | N値範囲 |
|-----|-------|-------------|-------------|------|-------------------------------|--------------|-------------------|
| 第 世 | 現 | 盛土層 | | B | 黒ボク | 2. 60, 3. 30 | 2～6 (平均 4. 3) |
| | | | | | No. 2' (基礎部) 黒ボク 粘土質細砂 シルト質細砂 | 8. 80 | 0～11 (平均 3. 6) |
| 四 紀 | 新 世 | 表土層 | | Ts | 黒ボク | No. 1 2. 30 | 3, 5 (平均 4) |
| | | 火山噴出物 | 立川・武蔵野ローム層 | TML | ローム | No. 1 1. 00 | 5 |
| 紀 世 | 堆 積 物 | 火山噴出物 | 下末吉ローム層 | Lc | 凝灰質粘土 砂混り凝灰質粘土 粘土質細砂 砂質粘土 | 3. 40, 4. 90 | 3～12 (平均 6. 3) |
| | | 浅海性 | 東京層：第 1 砂質土 | Tos1 | 粘土混り微細砂 粘土混り細砂 細砂・微細砂 | 3. 10, 3. 30 | 29～50 (平均 39. 5) |
| | | | 東京層：第 2 砂質土 | Tos2 | 粘土混り微細砂 粘土混り細砂 細砂・微細砂 | 5. 00, 6. 80 | 11～36 (平均 26. 1) |
| | | | 東京層：粘性土 | Toc | 砂質粘土 | 0. 80, 0. 90 | 13, 24 (平均 18. 5) |
| 紀 世 | 堆 積 物 | 東京層：第 3 砂質土 | | Tos3 | 微細砂 粘土混り細砂 細砂 | 3. 77, 4. 65 | 24～50 (平均 39. 4) |
- 1

